

平成31年度 京都府立綾部高等学校（本校全日制） 学校経営計画（スクールマネージメントプラン） （計画段階）

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と希望進路の実現 ・基本的な生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進 | <p>【本校】 (成果) ◆京都府教育委員会から指定を受けた、3つの事業【①京都フロンティア校地域創生推進校、②高校生伝統文化事業（文化歴史推進校）、③学びに向かう研究指定事業】を活かして、学校の特色化を一層推進することができた。 ◆ICTを活用した授業については、各教科のプロジェクトメンバーが積極的に取り組むことで、授業改善に繋がる良い刺激を他の教員に与えることができた。 ◆探究活動については、1年特進コースで「フロンティア学」として試行錯誤しながら取り組んだ結果、一定の成果があり、来年度以降の探究活動に活かせる良い取組となった。 ◆地元小中学校との連携については、中学校への学習ボランティア、小学校への出前授業、小学校行事への参加など多くの事業で連携をすることができた。 ◆進路指導においては、4年制国公立大学合格者が12名となり、就職希望者も内定100%を達成することができた。 ◆部活動においては、運動部では、男子ソフトボール部とカヌー部が全国高校総体に出場し、カヌー部は国民体育大会にも出場した。文化部においては、放送部が全国高校文化祭に出場し、書道部は本年8月に佐賀県で開催予定の全国高校文化祭に出場することになった。 (課題) ◆今年度も教育活動アンケートにおいて、学力向上について課題があったので、次年度はアンケート項目の見直しを含め、改善できるよう日頃の授業改善を第一として、学校全体で組織的に取り組む必要がある。 ◆働き方改革についての教職員アンケートの結果を受け、学校行事や業務について見直すことができたが、業務のスマート化に向けて、他校の事例等も参考にしながら、より一層実効性のある取組をしていかなければならない。 ◆4S運動の取組については、各分掌内で現状と今後の取組について協議し、部長会議で情報共有したが、机上整理や執務室内の整理が不十分なところもあるので、より一層進めていく必要がある。 ◆携帯電話の不正使用が多かったので、家庭と連携した粘り強い指導を継続して取り組む必要がある。 ◆自転車乗車時のマナー向上と交通事故防止に向けては、PTA等と連携した継続的な取組が必要であり、生徒の規範意識の向上等、更なるシティズンシップ教育の継続的な取組が必要である。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■A・G・P(Ayabe Global Program)の推進 〈スマートスクール〉〈探究活動〉〈地域発信〉〈連携事業〉 ■4S運動の推進 〈整理〉〈整頓〉〈清潔〉〈習慣〉 ■業務のスリム化 |

| 分掌教科 | 項目(重点目標) | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|------------|-------------------------|--|----|-------|
| 1 組織・運営 | 教職員の連携を強化し、組織的な学校運営をする。 | 教職員がチームとしての役割と責任を自覚し、効率的・効果的に業務を進めることで、年間時間外勤務時間の10%以上を削減する。 教育活動アンケートの「学力が向上していると思う(そう思う・どちらかといえばそう思う)」割合を生徒・保護者ともに75%以上とする。 | | |
| | 各種会議の機能を強化させる。 | 進路指導会議と生徒指導会議は必ず開催し、学年と分掌間の連携を充実させる。 各種会議により、生徒の実態について共通理解を図る。 | | |
| | 各種指定事業を有効に活用する。 | 特色化事業、伝統文化事業(伝統文化推進校)等を有機的に連動させる。 授業時数を確保し、年間を見通した各種事業を展開する。 | | |
| | | | | |

| 分掌教科 | 項目(重点目標) | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|--------------------------------|---|--|----|-------|
| 2 総務企画部 | 広報活動の充実 | 興味を喚起するWEBサイトを構築(「A・G・P」の取組紹介、教科毎の特設ページ開設、部活動ページ刷新)する。 | | |
| | | 学校説明会での在校生の役割や発表内容を充実させ、受験生へ高校生活の具体的なイメージを伝える。 | | |
| | | 「綾高だより」で在校生の生活を視覚的に伝え、高校の特色についての認知度を高める(年6回発行)。 | | |
| | 人権教育の推進 | 各学年での人権学習を中心に、人権教育の観点を持って全ての教育活動が行われるように啓発する。 | | |
| 国際理解教育の観点を持って教育活動が行われるように啓発する。 | | | | |
| PTA活動の支援 | PTA活動により多くの会員が参加できるよう、本部役員会との連携をさらに深める。 | | | |
| | PTA広報誌の作成がより円滑に進むよう、協力体制を強化する。 | | | |

| 分掌教科 | 項目(重点目標) | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|----------|--|---|----|-------|
| 3 教務部 | 主体的・対話的な深い学びの実現 | 教科主任を通じて、指導方法の改善や学習形態の工夫をするように徹底する。 | | |
| | | 各教科からICT・探究活動を取り入れた授業を2回以上公開するように、働きかける。 | | |
| | 重点目標に合う項目を入れて、授業アンケートを年間2回実施する。 | | | |
| 基礎学力の定着 | 生徒の基礎学力の定着に向けて、日々課題・週末課題を課すように徹底する。 | | | |
| | 進路実現に向けて、目標を設定し課題を解決する仕組みを教科担当・担任に働きかける。 | | | |
| 教育課程の編成 | 新学習指導要領に向けた教育課程編成を準備する。 | | | |
| | | 生徒が希望進路に合わせた科目選択ができるように、各教科と連携し事前指導を徹底する。 | | |

| 分掌教科 | 項目(重点目標) | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|---|--|---|----|-------|
| 4 生徒指導部 | 基本的な生活習慣を確立する | 常に身だしなみを整えるように、教職員全体で日常的な指導を徹底する。 | | |
| | | 遅刻をなくすため、スタンプラリーと入室許可証のシステムを実施し、学校(担任)と家庭が連携して指導する。(遅刻5回以上学期3名以内) | | |
| | 挨拶や入室マナー、正しい言葉遣いを身に付けるように指導する。 | | | |
| シティズンシップ教育を推進する | 生徒を中心に学校行事等を主体的に企画・運営させる。 | | | |
| | 登下校時の通学マナーや自転車マナーの向上を目指す。 | | | |
| ボランティア活動に積極的に参加し、地域社会とのかかわりを深める。(延べ参加人数年間60名以上) | | | | |
| 安心して学べる学校作りを目指す | 携帯電話利用のマナーやモラルの向上を目指す。(授業中の不正使用各学期10件以内) | | | |
| | いじめや暴力をなくす指導を行い、命の大切さを伝える。 | | | |
| | 盗難を未然に防止するため、校内巡視をしたり、HR指導等で貴重品管理を徹底させる。(発事件数年間0件) | | | |

| 分掌教科 | 項目(重点目標) | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|----|-------|
| 5 進路指導部 | 希望進路の実現に向けた確かな学力の育成 | 長期休業中に実施する特別進学講座の有効的活用を図り、また、模試データの分析とその活用を充実させ、個々の生徒の学習課題の解決を図る。 | | |
| | | 各生徒の希望進路の実現を果たし、卒業後の進路未決定を0とする。 | | |
| | 適切な資料を、適切なタイミングで提供できるよう、資料の整理整頓を心がけ、習慣化する。 | | | |
| 学年部、教科と連携した組織的進路指導の展開 | 担任との情報交換を密に行い、生徒の進路決定に必要な情報を積極的に共有する。 | | | |
| | 模試分析の資料や入試過去問題の積極的活用を図り、充実した教科指導のための環境整備を図る。 | | | |
| 教務部等、関連分掌との情報の共有を図る。 | | | | |
| 生徒自身の主体的進路選択の支援体制確立 | 3年間を見通した系統的なキャリア教育の充実を図る。特に低学年での系統的な指導を充実させる。 | | | |
| | 各ガイダンスに加え、個々の生徒に対応する「進路相談」の機能を一層充実させる。 | | | |
| 望ましい職業観、勤労観を育成するとともに、各生徒の特性に応じた就職支援を行う。 | | | | |

| 分掌教科 | 項目(重点目標) | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|---------|----------|---|----|-------|
| 4S運動の推進 | | SKD(掃除きれいにできる)活動をさらに充実させ、環境美化に関する意識を啓発する。 SKD活動の実施回数 A 13回以上 B 10回以上 C 7回以上 D 6回以上 | | |
| | | 校内の清掃状況の点検を実施し、校内の環境美化を推進する。 清掃状況の点検回数(年間) A 120回以上 B 100回以上 C 80回以上 D 79回以下 | | |
| | | 保健だよりを適宜発行し、生徒の環境美化の意識向上を図る。 保健だよりの発行回数(年間) A 15回以上 B 12回以上 C 9回以上 D 8回以下 | | |

| | | | | | |
|----------|--------------------------|--|--|--|--|
| 6 保健部 | たくましく健やかな体をはぐくむ。 | サーベイランス等を活用して感染症の予防に努める。 感染症による欠席生徒数（年間） A 50人以下 B 55人以下 C 60人以下 D 61人以上 | | | |
| | | 健康診断の結果、受診が必要な生徒について受診するよう指導を徹底する。 12月において受診を終えている生徒の割合 A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 | | | |
| | | 健康に関する日々の啓発活動を推進し、保健室来室生徒の数を減らす。 保健室来室生徒数（年間） A 800人以下 B 850人以下 C 900人以下 D 901人以上 | | | |
| | 1人1人を大切にし、個性や能力を最大限に伸ばす。 | 学年部や教科担当との連携を密にし、気になる生徒をもれなく把握し、進級のための支援を行う。 学校適応指導会議対象生徒と気になる生徒の成績不振科目数 A 2つ以下 B 4つ以下 C 6つ以下 D 7つ以上 | | | |
| | | 保健部会を適宜開き、情報共有と円滑でより質の高い活動が展開できるように努める。 保健部会実施回数 A 20回以上 B 15回以上 C 10回以上 D 9回以下 | | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|------------|-----------------------|--|----|-------|
| 7 第1学年部 | 基本的な生活習慣の確立と規範意識を高める。 | 家庭と連携をとり、高校生活のリズムを確立する。 健康に留意し、いつも元気に学校生活を送れるようにする。 ルールやマナーを理解し、しっかりと守れるようにする。 | | |
| | 授業規律を確立させる。 | 授業に集中させ、しっかり臨ませる態度を指導する。 携帯電話の正しい使い方を理解させ、不正使用を0にする。 4S運動に基づき、教室の美化や、学習環境を整える。 | | |
| | 学習習慣を定着させる。 | 学習することの大切さを理解させ、自分の目標設定ができるようにする。 家庭学習を充実させ、進学講習や模擬試験を積極的に取り組ませる。 進路実現のために、各種検定などにも積極的にチャレンジさせる。 | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|------------|-------------|---|----|-------|
| 8 第2学年部 | 基本的な生活習慣の確立 | 無遅刻・無欠席を目標に、無断遅刻・無断欠席を0にする。 挨拶や身だしなみをしっかりさせ、規則を遵守する態度を育成する。 4S運動を推進し、学習環境を整えさせる。 | | |
| | 学習習慣の定着 | 授業規律を確立し、意欲を持って学習に取り組ませる。 自ら課題を持って、家庭学習を習慣化できるようにさせる。 授業中のスマホ（携帯電話）の使用をさせない。（指導を0にする） | | |
| | 進路目標の確立 | 進路目標を達成するための計画を立てさせる。 積極的に模試や検定試験を受けさせる。 | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|------------|------------------------------------|---|----|-------|
| 9 第3学年部 | 自らの進路を意識させ、「第一志望」の進路を実現させる。 | 担任と進路指導部との志望校検討会を学期に1回以上実施する。二者(三者)面談を密にし、適切な進路情報の提供に努める。生徒の自尊感情を喚起し、学習意欲の向上に努め、「第一志望」を諦めさせない指導により、進路未決定者(浪人)を0人とする。 模擬試験を分析し、担任、教科担当者、進路指導部とで情報を共有する。確固としたエビデンス(根拠)に基づいた進路指導に努め、生徒の最善の進路選択に寄与するように努める。 ファイナンスシステムなどのツールや模試結果を効果的に活用し、年間3回、生徒や保護者へ適切な進路情報を提供する。 | | |
| | 望ましい生活を過ごさせ、下級生の「範」となる3年生として自立させる。 | 学年集会や委員会活動を活用し、学年全体で規律ある行動やマナーを守ろうとする雰囲気醸成し、定期考査ごとの頭髪・服装違反生徒数を10名以下にする。 「まなび庵」や「わいがやルーム(仮称)」「がんばろーか」などの積極的な利用を促し、進路実現に向けた「共闘」意識を持たせる。 部活動や学校行事などに全力で取り組み、リーダーシップを養う。 | | |
| | 生徒及び保護者との連携を密にし、信頼感の醸 | 学年(学級)通信を一年間を通じて計15回発行し、情報発信に努める。また、生徒の元気で生き生きとしている姿や努力する姿(遠足、進路ガイダンス、特設LHR、学校祭など)をHPIに5回程度掲載する。 | | |

| | | | | | |
|--|--------|---|--|--|--|
| | 成に努める。 | 夏期休業中に全生徒対象の三者面談を実施するとともに、随時、必要に応じて生徒の様子を保護者に連絡し、家庭での協力を依頼する。 | | | |
|--|--------|---|--|--|--|

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|---------------|---|---|----|-------|
| 10 事務部 | 適正な事務処理の遂行と教育の諸条件整備 | 短期経営目標に基づいた予算の計画的・効率的な執行を行う。 | | |
| | | 各分掌部長や教科主任と連携し、ICT・探究活動を取り入れた教育活動を推進する。 | | |
| | 窓口業務及び電話対応における信頼される学校 | 保護者や来客者等に親切・迅速・丁寧な窓口対応を行う。 | | |
| | | 電話対応において、迅速な取り次ぎ、丁寧かつ確かな説明を行う。 | | |
| 安心・安全・清潔な環境整備 | 来客者に来客者名簿を記入いただくことで来客者の行動を把握し、不審者対応を図る。 | | | |
| | | 4S（整理・整頓・清潔・習慣）運動を基に、安全で清潔な教育環境の整備に努める。 | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|----------|--------------------------|--|----|-------|
| 1 国語科 | 学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。 | 計画的・継続的な小テストや課題への取組を通じて、家庭学習に主体的に取り組めるよう指導する。 | | |
| | | 基本的な語彙力の向上を目指し、日本漢字能力検定の受験を推奨し、合格率50%となるよう支援する。 | | |
| | | 学習規律を確立するとともに、切磋琢磨する学習環境づくりに取り組む。 | | |
| | 個に応じた指導を進め、希望進路の実現を支援する。 | 模擬試験等の分析により、各コース、個人の実態の把握に努め、その特性に合わせた指導を行う。 | | |
| | | 各クラス担任、進路指導部と連携し、小論文・志望理由書の作成等、表現に関わる取組の支援を行う。 | | |
| | | 「読書の時間」等、読書の取組を通じて、読解力、思考力の育成を目指す。 | | |
| | 国語科全体の教科指導力の向上に努める。 | 外部機関での研修に参加し研鑽に励むとともに、指導方法等について積極的に意見交換し、指導力の伸長を目指す。 | | |
| | | 「大学入学共通テスト」実施に向け、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する方策の研究に努める。 | | |
| | | 効果的なICTの活用やアクティブラーニングの実践等について研究し、授業に生かす。 | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|-------------|--|---|----|-------|
| 2 地歴・公民科 | 基礎学力の定着を図り、希望進路の実現に努める。 | 定期的小テストを実施し、課題を与えて、家庭学習の定着化を図る。 | | |
| | | 時事問題や地元の身近な題材を常時取り上げ、生徒が自ら興味関心を示す授業となるように努める。 | | |
| | 豊かな人権感覚や社会性の育成を意識した授業に努める。 | すべての科目において、常に基本的人権を意識した授業を展開する。 | | |
| | | 常にシティズンシップ教育の視点に沿って生徒に接し、規範意識の向上を図る。 | | |
| | 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業方法の改善に努める。 | クラスの実態に応じて、レポート作成やプレゼンテーション活動などを学期に1回ずつ実施する。 | | |
| | | 効果的なICTの活用について研鑽に努め、教科で年間4回以上の研修に参加する。 | | |
| | 「主体的・対話的で深い学び」の視点をふまえ生徒の興味・関心を喚起する教材の活用を進める。 | | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|----------|------------------------------|--|----|-------|
| 3 数学科 | 希望進路の実現に向けた学力の定着 | 各コース・クラスの実態に合わせて小テストや週末課題等を行い、家庭学習の習慣を確立させる。 | | |
| | | 適切な教科指導を行い、模擬試験における成績上位者を増やす。 | | |
| | | 日常生活の中に隠れている数学的なものを紹介しながら、数学に興味関心を抱かせる。 | | |
| | 生徒の希望進路・学習状況に即した授業の実践 | 希望進路の実現のために教材や進学特別講座を充実させる。 | | |
| | | 授業規律を確保する。 | | |
| | 授業方法の工夫・改善に努める。 | 学力不振生徒への補充・補講を引き続き充実させる。 | | |
| | 生徒が能動的に参加できる授業になるように工夫・改善する。 | | | |
| | ICTを活用した授業を工夫・改善する。 | | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|------------|--|--|----|-------|
| 4 理科 | 個々の生徒・コースに応じた指導の工夫 | 「主体的・対話的で深い学び」の観点から、各々の科目・総合的な探究の時間(フロンティア学)において、生徒の思考・判断を促す発問をし、年度末の授業評価アンケートにおいて、7割以上の肯定的な意見の獲得を目標とする。 | | |
| | | 実験・観察や野外活動を積極的に実施し、少なくとも学期に1回は実験・観察等の探究活動を行う。 | | |
| | | 授業規律を確立し、学習環境の向上に取り組む。このことにより、成績不振生徒数を0にする。 | | |
| | 基礎学力を定着と応用力の育成 | 各学年部・担任との連携を密にし、各々の生徒・コースの学習状況を把握し指導にいかし、教科の評定平均値3.5以上を目指す。 | | |
| | | 教科で学期ごとに12回以上、電子黒板・ICT機器を用いた授業を実施する。 | | |
| | | センター試験理科の得点率50%以上の生徒の割合を、理科受験総科目数の30%以上を目指す。 | | |
| 指導力の向上に努める | 教科研究会を年間3回以上実施する。 | | | |
| | 校外での研修に積極的に参加し、自己研鑽に努める。教科で年間合計4回以上の研修に参加する。 公開授業や研究授業に、教科で10回以上参加し、教科指導力の向上を目指す。 | | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|--------------------------------|-------------------------------------|---|----|-------|
| 5 保健体育科 | 授業規律を確立する。 | 安全面に留意し、挨拶、集団行動等、きびきびとしたはじめのある授業を行う。 | | |
| | | 時間を大切にすることを意識を持たせ、授業遅刻を年間でのべ5人までにする。 | | |
| | | 適切な服装、正しい用具の使い方、有意義な班会議の方法、ノート提出等を指導する。 | | |
| | 生涯を通じて運動ができる資質や能力を育てる。 | 運動量の確保に努め、体力及び運動技能を向上させる。 | | |
| | | 班活動を通して、自主、協力、責任等の社会性を育てる。 | | |
| | | 運動への興味・関心・意欲を高め、生徒自ら積極的に活動させる。 | | |
| 健康・安全への関心を高め、日常生活の中で実践できる力を育む。 | 自ら課題を見つけ、探求する能力及び行動力を育てる。 | | | |
| | 健康の保持増進への知識や理解を深め、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 | | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|---------------------|--|---|----|-------|
| 6 英語科 | 4 技能を統合した授業展開の工夫と研究 | 授業におけるICT機器・ICT教材の効果的な活用について研究や実践を行うとともに、教材と指導案を共有する。 | | |
| | | 綾部高校独自のルーブリックを教員と生徒が共有し、目標設定や到達度の把握、そして評価の観点として活用する。 | | |
| | | 英語科全体で年間合計15回以上は学外の研修に参加し、入試動向や効果的な指導方法を学び、成果を普及する。 | | |
| | 基礎学力の定着と応用力の伸長 | 小テストや週末課題を適切に実施し、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。 | | |
| | | 応用力伸長のために進学特別講習や習熟度講座を有効に活用し、模試等における各コースの平均点偏差値を3点伸ばす。 | | |
| | | 特進コースを対象にGTECを実施し、1年生は15人、2年生は20人以上の生徒が、GTECグレード4(高校中級)以上の英語力を身に付けられるように指導する。 | | |
| 英語を用いた情報処理能力と発信力の強化 | 1年生を中心に、各学期に1回はパフォーマンス課題に体系的に取り組み、英語を用いて自己表現する力を伸ばす。 | | | |
| | 探究活動を通じて、英語で情報や考えをまとめて発信する力と態度を育てる。 | | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|---|-----------------------------|--|----|-------|
| 7 芸術科 | 基礎技術を充実させ自ら学ぶ意欲を育てる。 | 生徒一人ひとりの能力の掌握に努め、基礎的な内容から高度な内容まで表現できる幅を広げさせる。 | | |
| | | 年度末に授業アンケートを行い、「この1年間で技量を伸ばし、表現する楽しさを知った。」という生徒を8割以上にする。 | | |
| | | 授業時間を有効に活用し、授業規律を大切にす。 | | |
| | 感性を磨き、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。 | 鑑賞活動を通して生徒の興味・関心を高め、幅広い価値観を養う。 | | |
| 発表の機会を多く持つことで表現する喜びを知り、感性を伸ばし生涯にわたって芸術を愛好する心情を養う。 | | | | |

| | | | | |
|--------|---|--|--|--|
| 指導力の向上 | ICTを活用した教材研究を継続して行い、授業力の向上を目指す。 生徒の興味・関心に鑑み、効果的な教材を選定し表現する楽しさを体験させる。 | | | |
|--------|---|--|--|--|

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|----------|--------------------|--|----|-------|
| 8 家庭科 | 家庭生活の改善・充実・向上を目指す。 | 家庭生活の中から課題を見つけ出し、学んだことを実生活で生かせるような授業を展開する。 卒業後の生活を見据えた学習を取り入れる。 | | |
| | 自ら学ぶ意欲を育てる。 | 実習を通して達成感や充実感を感じさせる工夫を行う。 体験的な授業を取り入れ、実生活に取り入れられる基礎的な知識や技能の定着を図る。 | | |
| | 指導力の向上 | 生活実態や生徒の現状に応じた学習内容を検討する。 研修会に3回以上参加し、授業方法や学習教材を検討する。 | | |

| 分掌教科 | 項目（重点目標） | 具体的方策及び数値目標 | 評価 | 成果と課題 |
|----------|---------------|---|----|-------|
| 9 情報科 | 基本的なICT機器の使用法 | キーボードによる入力の練習。文字数にして10%の向上を目指す。 文書作成、表計算、プレゼンのソフトウェアの使い方を学ぶ。 | | |
| | 情報モラル意識の育成 | 個人情報の取り扱い方を通して、自己の個人情報について学ぶ。 知的財産権（著作権・特許権など）の歴史を通して、その重要性を理解させる。 インターネットの安全な使い方、被害に遭わない使い方について学ぶ。 | | |
| | 情報技術の活用 | 基本的なデジタル情報の仕組みについて理解させる。 インターネットの仕組みについて理解させる。 | | |

| | |
|-------------------------|--|
| 学校関係者 評価委員会 による評価 | |
|-------------------------|--|

| | |
|-------------------|--|
| 次年度に向けた改善 の方向性 | |
|-------------------|--|